

東日本大震災。

百年経ったら

映像配信

《プロジェクトFUKUSHIMA!》藤井光監督

記憶
Memory



2021年3月17日(水)
15時-18時

参加無料
映像配信
要事前申し込み

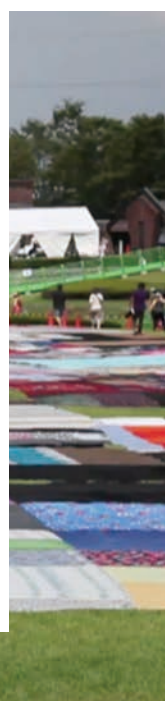
講演

水出幸輝

飯田豊

藤井光

司会 美馬達哉 / マーティン・ロート / 有馬恵子
主催 立命館大学東日本大震災シンポジウム実行委員会2021



忘却

Oblivion

Inheritance
継承



初対談

大友良英

藤井光

災害／緊急事態とアート

東日本大震災から10年を経て



本シンポジウムは、

東日本大震災直後の福島市でおこなわれた

《プロジェクトFUKUSHIMA!》の

映像記録を制作に関わった

大友良英・藤井光両氏とともに10年後の現在に見直し、

「災害／緊急事態とアート」という喫緊の課題、

さらに「出来事とアート」という

普遍的な問題を思考します。

なぜなら、放射能であれ、パンデミックであれ、

人びとを生物としての生へと

縮減しようとする諸力への抵抗であり、

その抵抗が残す爪痕がアートだからです。

しかし、10年前の東日本大震災を

現在のコロナ禍と重ね合わせるとき、

「災後」という視点からの相対化、

つまり出来事と時間という

歴史をめぐる問題を明示的に導入する必要性に

私たちは思い至りました。

そこで、この映像作品の宛先である

「100年後の未来」を起点に

メディア研究者とともに振り返ることで

震災から10年を経た現在を見直し、

災害の記憶・継承、そして忘却を

めぐってアーティストと研究者が討論を行います。

アートに関する議論と同時に

メディアを通して何が継承され何が忘却されるかの

集会的記憶の力学も扱うことで、

新たな視界が開かれるでしょう。

それは、生物としての生に縮減されない生存の

あり方と技法を発明することでもあるはずです。

※時間は前後することがあります。

司会

美馬達哉／立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授

マーティン・ロート／立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授

有馬恵子／立命館大学大学院先端総合学術研究科 博士課程

登壇者

大友良英

1959年横浜生まれ。音楽家。10代を福島市で過ごす。世界中で同時進行かつインディペンデントに即興演奏やノイズ的な作品からポップスに至るまで多種多様な音楽をつくり続けている。2011年の東日本大震災を受け、遠藤ミチロウ、和合亮一とともに「プロジェクトFUKUSHIMA!」を立ち上げる。

藤井光

1976年東京都生まれ。アーティスト。芸術は社会と歴史と密接に関わりを持って生成されるという考え方のもと、様々な国や地域固有の文化や歴史を綿密なリサーチやフィールドワークを通じて検証し、同時代の社会課題に回答する作品を主に映像インスタレーションとして制作している。

水出幸輝

日本学術振興会特別研究員PD／京都大学。1990年名古屋市生まれ。専門は社会学、メディア史。日本社会における災害認識の変遷について、災害ごと、地域ごと、時代ごとの比較研究を行っている。

飯田豊

立命館大学産業社会学部准教授。1979年広島県生まれ。専門はメディア論、メディア技術史、文化社会学。メディアの技術的な成り立ちを踏まえてこれからのあり方を構想することに関心があり、歴史的な分析と実践的な活動の両方に取り組んでいる。

オンラインシンポジウム

東日本大震災。百年経ったら — 記憶・継承・忘却 —

<https://www.ritsumeai-arsvi.org/news/news-3484/>

開催日時 2021年3月17日(水) 14:30開場 15:00開演 18:00終了予定

参加費 無料(事前申込み制)

主催 立命館大学東日本大震災シンポジウム実行委員会2021

共催 立命館大学生存学研究所

後援 立命館大学大学院先端総合学術研究科

協力 DELTA / KYOTOGRAPHIE Permanent Space

※申し込み後に届く確認メールにシンポジウムのzoomのリンクおよび配信映像のリンクとパスワードが記載されています。

必ずgoogle formから届くメールをご確認ください。

申し込みはこちらから

<https://bit.ly/2ZkEUS9>



※情報保障が必要な方のために文字通訳が入ります。
※本シンポジウムは当初、映画上映後、対談と講演を予定していましたが、状況を鑑み、すべてオンライン(Zoom)で開催することになりました。参加申込者には主催者より映画配信のリンクをお送りします。事前に各自でご覧いただいた後、オンラインシンポジウムにご参加ください。
※本シンポジウムは挑戦的研究「萌芽」「マテリアライズ」の構築・研究・発信・領域横断的ネットワークの基盤創成(19/20/2020)代表・美馬達哉の支援を受けています。



2011年8月15日に福島市で行われたフェスティバル《プロジェクトFUKUSHIMA!》のドキュメンタリー映画は、震災で何が起こったのかを「100年後に伝える」ことを目的として音楽家の大友良英が映像作家の藤井光に依頼し、藤井がそれに応えるかたちで制作された。大友を中心とした音楽家がどのようにフェスティバルを実施したのか、その中で市民がどのように協働したのか、立ち上げから同年8月15日に実施されたフェスティバルまでの日々が収められている。フェスティバルで行われた「オーケストラFUKUSHIMA」はほぼノーカットで収録。